



第166号
2013年
8月9日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyou.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyou.ne.jp

目次：1~3, 宿舎縮小問題についての要望書と、回答 3~4, 新三役紹介、新執行委員紹介
5~6, 中四教研集会報告、全大教技術職員交流会報告 7, 旅行記 8, お知らせ



宿舎縮小問題 結論先送りに

昨年来、職員宿舎の縮小等についてキャンパス将来構想検討委員会の審議状況が教職員に知らされ、その中で、現在入居しているほとんどの世帯は原則5年以内に退去し、限られた宿舎に特定の職員のみが入居できるものとするなどが提案されていました。

岡山大学職員組合では、この提案は職員に対する福利厚生への切り捨てととらえ、昨年末に実施した緊急アンケートの結果（『組合だより』160号に掲載）をそえて、団体交渉においてこの提案の撤回を求めてきました。さらに、7月10日には、これまでに組合に寄せられてきた宿舎縮小反対の声をまとめて「宿舎縮小問題についての要望書」を学長宛てに提出いたしました（後掲の文書1）。

すると、大学側より7月31日に「**今後もう少し時間をかけて案を作っていく**」「**現時点で決定している事項はございません**」という回答がありました（後掲の文書2）。今年度を含めた5年以内に宿舎から出て行くことを求めていたものが突然の方針転換です。さらに、組合より「これは白紙撤回ということか」と尋ねたところ、「全て白紙撤回とした訳ではなく」、「社会情勢やこれまでキャンパス将来構想委員会において検討された内容を踏まえつつ、再度検討を進めていく」との回答でした（後掲の文書3）。

組合では、今後も職員に対する福利厚生事業の充実を求め、職員宿舎問題に取り組んでいきます。

（文書1）

国立大学法人岡山大学
学長 森田潔 様

2013年7月10日

岡大職組申第52号

岡山大学職員組合

執行委員長 中富公一

宿舎縮小問題についての要望書

岡山大学職員組合では、宿舎縮小問題について、昨年末に緊急のアンケート調査を行い、また本年も教職員から様々な意見を徴集して参りました。以下、調査結果とこれまで寄せられた意見をご紹介しますとともに、今回の宿舎問題に関する法人側の方針の見直し・撤回を要求いたします。また、この要望書に対する大学の見解を7月31日までにご回答いただきたいと思います。

1. アンケート調査概要

2012年12月26日に行った緊急アンケートには、短期間にも関わらず、106件（そのうち49件が非入居者からの回答）もの意見が寄せられました。現入居者・非入居者を問わず多くの岡山大学教職員が、宿舎縮小という今回の法人側の提案を、驚愕と憤りを感じながら注視していることがうかがえます。（詳しくは、2013年1月31日発行の「組合だより」をご覧ください。
http://oduion.sakura.ne.jp/news/news_160.pdf で閲覧可能。）

「職員宿舎の縮小に反対」と回答したものの割合は、76%（106人中81人）であります。ただし、留意していただきたいのは、宿舎現入居者のうち「縮小に反対」するものの割合が90%（52人中47人）であることに加えて、非入居者の「縮小に反対」するものの割合が61%（49人中30人）であるということでもあります。つまり、居住者・非居住者問わず、大多数の岡山大学教職員が、宿舎の必要性和存在意義を認め、その存続を強く望んでいるということ、法人におかれましては、この事実を誠実に受け止めていただきたいと思います。

教職員からの具体的な声

本年5月から6月にかけて寄せられた宿舎問題に関する意見をまとめたものが、以下です。

2-1. 宿舎の存在意義について

賃料が安いこと、大学に近いこと以上に、宿舎には幼児から小中高生までのたくさんの子どもたちとその家族が住んでいて、育児に適した環境が整っているため、安心して仕事と家庭生活を両立できる。また宿舎では草取りや町内会行事の手伝いなどの役割分担を通じた協力関係があり、学部を超えて岡山大学教職員と仲良くなることができる。(子ども二人、夫婦ともに大学職員の方からの意見)

- ・ 大学近接の宿舎に居住できることは、大学の教育・研究活動に重要な意義を持っている。
- ・ 宿舎の存在は、大学周辺のコミュニティーへも良い影響があると思われる。宿舎廃止は、地方自治体や他の教育機関も反対するのではないか。岡山大学の「学都」構想がモデルとしている都市は、いずれも学生寮と並んで教職員宿舎を充実させる方向に進んできている。住環境・勤務条件を悪化させながら「学都」を語るのは矛盾している。(非入居者からの意見)
- ・ 特に若手の教職員など、優秀な人材確保に宿舎は大変重要である。欧米の優れた大学は、教育・研究の場と教職員・学生の居住空間とが一体化したすぐれた環境を提供してきたのであり、良く整備された宿舎こそ、「大学都市」の柱として機能してきた。残念ながら日本にはそのような伝統がこれまであまりなかったからこそ、「美しい学都」を構想する岡山大学は、宿舎の存続と発展を目指すべきである。

2-2. 法人の提案に対する質問

- ・ 宿舎廃止には反対だが、法人が宿舎を縮小・廃止するという提案をするからには、そのことによって生じる教職員の精神的・肉体的・時間的・金銭的負担に対して、具体的にどのような補償(移転費用を含めて)がなされるのか、説明していただきたい。
- ・ 最大・連続5年間以内の退去というあまりにも唐突な提案につき、なぜこのような短期間での退去を求める必要があるのか、「昨今の社会情勢が許さない」などという抽象的な説明ではなく、納得のいく十分な説明を行って欲しい。
- ・ 法人はこれまでも、給与削減など国家公務員に準じた措置を行って来ているが、一般の国家公務員に対する職員宿舎の取り扱いの動向や、他の国立大学における対処の状況を十分に調査しこれを注視した上で、慎重に検討を進めて頂きたい。

世界各国で大学間の競争と淘汰が激化する中、生き残って来た大学とは、“知の集積”を可能とする政策を打ち出した大学であります。創造力豊かな若手研究者と職員をひきつけ、高度な専門知識をもった熟年の教職員を決して手放さない。そうした環境を整えた大学こそがこの改革の時代に勝ち残っていく大学です。こうした知の集積の1つの条件として最先端の都市論が例外なく挙げているのが、大学が独自に用意する教職員への優れた住宅供給であります。上の意見にも書かれておりましたように、「充実した宿舎なき『学都』構想」とは、語義矛盾でありましょう。美しい学都へと岡山大学を益々発展させていくためにも、優れた教職員の知の集積を可能とする、宿舎の存続と発展とを強く要望するものであります。

(文書2)

平成25年7月31日

岡山大学職員組合執行委員長殿

国立大学法人岡山大学
理事(企画・総務担当)・副学長
許南浩

宿舎縮小問題についての要望書について(回答)

平成25年7月10日付け岡大職組申第52号で要望のありましたこのことについて、下記のとおり回答いたします。

記

本件については、キャンパス将来構想検討委員会において検討を行っているところであり、去る平成25年6月12日開催の同委員会において、今後もう少し時間をかけて案を作っていくことについて、説明し了承をいただいております。このため、現時点で決定している事項はございません。

今後、社会情勢を踏まえつつ、キャンパス将来構想検討委員会において検討を進めていくことにしたいと考えております。

以上

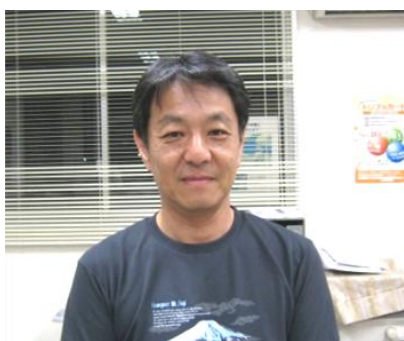
「現時点で決定していることはございません」とは白紙撤回することかという追加質問への回答。

(文書3) 職員宿舎の運用方針案については、各部局の教授会等でご説明いただくようお願いしたところ、様々な意見をいただいたことから、これらを踏まえて再考することといたしました。従いまして、現在、決定した事項は何もございませんが、全て白紙撤回とした訳ではなく、今後、社会情勢やこれまでキャンパス将来構想委員会において検討された内容を踏まえつつ、再度検討を進めていくことにしたいと考えています。

～ 新 三 役 紹 介 ～

池田 直 副委員長 (理学部)

西野 直樹 副委員長 (農学部)



組合は「人任せにしない」という感覚で参加する所と思っています。職場は何においてもそうでしょうが。常日頃、沢山の岡大スタッフのお世話になりっぱなしなので、せめてここで岡大に恩返しをしなければと思っています。自信はないのですが。先日学長・理事と懇談した折、組合は大学のガバナンスシステムの一部であり、構成員から直接意見が来る重要なチャネルと考える、と伺いました。できるだけ皆さんの声が集まるようがんばります。



雇用は一応守られてるし、労働環境に関する個別の問題に対応してくれるとは思えない。何より三役とかを依頼されるとかえって仕事の邪魔になる。そのように考えて、職員組合を敬遠される方は少なくないと思います。でも、専門あるいは職場が異なる方の考えや経験を聞く、問題解決や環境改善のオプションがいろいろあることに気付かされます。風通しのよい職場づくりに向けたリフレッシュの場。そんな気楽な気持ちで参加させていただくことにしました。農学部で動物栄養学を専門としています。非才で微力ではありますが、よろしくお願ひします。

～ 新 執 行 委 員 紹 介 ～

法文経単組 (法学部) 米山毅一郎

専門は商法です。少数株主権の保護・会社役員
の権限濫用規制に関心を有し、株主の監督は
正権を中心に研究しています。

もはや純然たる公務員ではなくなった私達の
労働者人権保障のためには、質・量共にする組
合の活性化が急務です。組合悪玉論・無機能論
を超克すべく努めます。

よろしくお願ひ致します。

法文経単組 (文学部) 龍野 有子

今年度、法文経単組の書記長と連合体の執行
委員を務めさせていただくこととなりました、
文学部の龍野有子でございます。専門は美術史
学で、ベルギー近代美術研究を標榜しておりま
すが、最近では日本近代に関する研究の方に
関心が移っています。組合活動については、十
数年前に岡大に赴任して間もない頃、一度
執行委員を務めさせていただいたことがあり
ましたが、連合体の方は今回が初めてと
なります。どうぞよろしくお願ひ致します。



教育学部単組 赤木里香子

教育学部職員組合(単組)は、2011・12年度に連合体執行委員長として住野好久先生を送り出し、連合体を支え、協働してきています。引き継ぎのため今年度も副委員長として連合体の三役に残られる住野先生を、引き続きバックアップしていきたいところです。それには、案外と単純に「この職場で、この仲間と働くのは楽しい!」と思える機会を作ることが大切ではないかと考えております。私たち単組の活動が連合体のさらなる活性化を促すような連動した活動を展開できたらと思っています。



教育学部単組 松枝 睦美

教育学部職員組合は、将来を見据えた活動とともに、教職員同士をつなぐことをとても大切にしていると思います。今年度も赤木委員長をはじめ委員の先生方と楽しい企画や交渉など、皆様の役に立てるような活動を計画しています。連合体は、大学運営や労働改善などの交渉のみならず単組の活動も支援しています。私どもは一年間の活動を通して連合体と単組の橋渡しの役割ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

理学部単組 高橋裕一郎

本年度より執行委員、理学部単組では委員長を務めることになりました。専門は、植物の葉緑体遺伝子の働きや光合成の分子機構の研究です。岡山大学へ赴任して28年目になりますが、大学も年々忙しくなり、教育や研究に費やす時間が少なくなっていることが、大きな悩みの一つです。組合活動を通して大学の教育・研究環境が少しでも良くなるよう貢献できればと思っています。宜しくお願い致します。

理学部単組 味野 道信

本年度執行委員になりました理学部の味野です。急速に進むキャンパス整備工事を見ながら、来春の学生サークルの新生勧誘行事(お花見)がどう変化するかと、ふと考えています。学外へのオープン化が進むキャンパスで、教育、研究環境がより良くなるように、ハードとソフト面での変化に注目して、何か小さい事からでも少しずつ、提案できればと思っています。微力ですが、よろしくお願いいたします。

農学部単組 中野 龍平

この度、初めて、連合体の執行委員となり、分からないことばかりで、まずは、委員会にて勉強させて頂いている状況です。私の12歳になる長男は重度の自閉症・知的障害を患っており、障害者の方の雇用や障害者を持つ家族への支援などには関心があります。また、この分野においては長男が与えてくれた経験が活かせるのではないかと考えております。ご協力できることがありましたら、声をおかけ下さい。



附属学園単組 日吉 康幸

今年度、附属学園単組の執行委員長を務めさせていただくこととなりました、附属中学校の日吉康幸と言います。中学校での教科は、技術・家庭科の技術です。今年で四年目で、現在は1年生の担任をしています。20年ほど前は実習生という立場で、附属中学校に来ましたが、まさか、自分が逆の立場になろうとは考えていませんでした。組合活動については、初めてで何をどのようにしたらよいのか、あまり分かっていません。どうぞよろしくお願いいたします。

附属学園単組 内藤由美子

附属学園の内藤由美子です。組合の仕事のことは初めてのことで戸惑っています。附属学園の方々と力を合わせて、職場の声に耳を傾け、現場の思いに少しでも敏感になっていけたらと思っています。今まで以上に職場での会話を楽しみながらやっていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

中四国教研集会に参加して

笹倉万里子



2013年6月22、23日、徳島大学で行なわれた中四国教研に参加してきました。全部で参加10単組(うちオブザーバ参加2単組)、参加人数は各日27名、岡山大学職員組合からは4名が参加しました。

内容は、中嶋信徳島大学名誉教授の記念講演、中富公一岡山大学教授の緊急講演「96条改憲の狙いー自民党改憲草案を読むー」、各単組からのレポートが9本の非常にもりだくさんで充実したものでした。各単組がさまざまな問題に積極的に取り組んでいる報告を聞いて、元気をもらいました。

内容は、中嶋信徳島大学名誉教授の記念講演、中富公一岡山大学教授の緊急講演「96条改憲の狙いー自民党改憲草案を読むー」、各単組からのレポートが9本の非常にもりだくさんで充実したものでした。各単組がさまざまな問題に積極的に取り組んでいる報告を聞いて、元気をもらいました。

中富公一氏の緊急講演は「96条改憲の狙いー自民党改憲草案を読むー」と題し、自民党改憲草案の問題点を専門家の立場から解説していただきました。丁寧に解説していただき、非常に有意義な講演でした。

各単組からのレポートの内容はバラエティに富んだもので、組合として取り組むべき問題はこんなにもいろいろあるものかと改めて勉強になりました。それぞれ簡単に紹介します。

<島根大学>

島根大学としては今回初めて実施された看護師オリエンテーション後の組合勧誘と、その後のフォロー体制についての発表がありました。また、教職員対象に行われたアンケートの結果報告もありました。

<山口大学>

教員の裁量労働実態アンケートの報告がありました。国立大学法人の大学教員はそのほとんどが裁量労働制となっていますが、「裁量労働」という名のもとで長時間労働となっている実態がアンケートにより見て取れるという報告がありました。

<鳥取大学>

2011年に国家公務員において病気休暇の上限が90日間と設定されたことに対応して鳥取大学では病気休暇制度の取得日数の上限を90日にするという提案がされています。鳥取大学の組合ではこの

上限導入は病欠者の職場復帰に向けたプログラムの提案などとセットで提示されるべきであるということ交渉中であることが報告されました。ちなみに岡山大学ではすでに病気休暇の上限は90日となっています。

<高知大学>

高知大学では、臨時給与削減問題で大学を提訴することになりました。この教研集会ではそれに至るまでの経緯、全教職員対象のアンケート結果などが報告されました。また、中四国ブロック各単組へ裁判傍聴支援やカンパの協力依頼がありました。高知大学はこの後、7月26日に原告団18名で提訴を行いました。



<広島大学>

広島大学は全大教に加盟していませんが、オブザーバ参加として広島大学の組合専従の方が参加され、広島大学の状況等を話されました。

<徳島大学>

徳島大学では労働契約法改正前から地道に有期雇用職員の雇用期限撤廃の運動を続け、2013年4月の労働契約法改正を機に雇用期限撤廃を実現したという報告がありました。

<香川大学>

香川大学では、大学の財務状況のチェックを独自に公認会計士に依頼することを検討しているとの報告がありました。団体交渉や学長交渉を行う上で組合側もしっかりとした財務の知識が必要だということです。他大学の組合にも協力して財務状況分析を行わないかという呼びかけがありました。

<岡山大学>

岡山大学からは昨年度取り組んだ有期雇用職員の雇用期限問題に関する報告を行いました。



全大教中四国地区は、本当に雰囲気がよく、教研集会でも和気あいあいと楽しく話はずみしました。それぞれの組合はけして大きくはないのですが、それらが連帯することで幅広い活動ができるということを実感した教研集会でした。

中四国教研集会に参加して

岡本 一代

中四国教研集会に参加し、徳島大学名誉教授の中嶋信先生（経済学）の記念講演をお聞きしましたので報告します。

テーマは、「大なる希願を」～足下から維持可能な社会への転換を図るべきだ。世界に対する大なる希願をまず起こそう～。「大いなる希願を」は、宮沢賢治の言葉、願いを込めて考え直そう！と説明がありました。

「健康で文化的な生活」からほど遠い被災地の実情

宮城、福島は、大震災から復興がまったく進んでいない。教育権、生存権はどこに？みんなが安心して暮らせる社会を作ろう！と、現在お住まいの宮城県の状況等が話されました。

経済は国民の生活の安定化が目的

下請けいじめ、海外展開、非正規雇用の労賃圧縮、マネーゲームの現状。今の政策は、経済学で許されない野蛮な財政政策である。TPP 問題など外圧が日本を劣化していると、ご専門の経済学の立場から話されました。

組合は、時代に合った運動形態に

徳島大職組のメルマガ発信や、非正規労働者（有期雇用約 1,000 人+非常勤講師 960 人）の雇用期限撤廃の取り組みなどを例にあげられました。

新しい社会は可能だ

中南米カリブ海諸国共同体、アジア TAC の活動を紹介され、「友好と協力の社会へ転換していこう！」と締め繰られました。

「大学は、正論の通る職場である。助け合い、問題を解決しよう！」と穏やかな口調で力強く言われた中嶋先生の言葉が印象深く、組合の重要性を再確認しました。



平成 25 年度技術職員交流会議に参加して

藤原 貴生



6月15日土曜日の13時から東京の神田エッサム本社ビル4階「こだまホール」において、平成25年度技術職員交流会議が開催されました。35単

組から39名の参加があり、運営の10名を含めると計49名の参加でした。

職員部部長の挨拶にはじまり、17時までの約4時間、活発な発表、意見交換が行われました。

会議は前後半にわかれ、前半では技術職員を取り巻く諸問題、とりわけ3本柱である、昇給昇格、組織化、資格手当について、先頃行われた『昇格・手当支給実態等調査』の結果に基づいて総合的な議論が交わされ、後半では各単組からの報告に基づき、個別の問題について議論が交わされました。

技術職員を取り巻く労働環境問題は多いにもかかわらず、組合活動は今ひとつにぶいとのことです。また、職員交流会議も以前は毎年開催されていたものが、予算の都合で数年前から隔年開催になっており、活動の鈍化が心配されていました。

以下、議論の中で気になったいくつかの話題を紹介します。



●組織化について

組織化は、技術職員の労働環境改善の有効な手段の一つとして考えられています。組織化により上位職のポストを増やし、昇給枠を拡大することができます。2011年に開催された技術職員交流会議では、大きなテーマとして取り上げられ議論が交わされていましたが、今回の議論は若干おとなしめであった印象を受けました。組織化による問題点の指摘も有り、上級職が儲けられたのは良いが、役付きと級が連動するために、役につけずに定年を迎える職員は、組織化以前よりも低い級のまま定年を迎えることになってしまい、人によっては以前の年齢によって自動的に級が決まるシステムのほうが良かったという話もあるそうです。

●技術職員の人事交流・人事異動について

都城高専では、高専間職員交流制度実施に反対する活動を行っていました。広域での人事交流により昇給昇格を促すシステムの導入を計画しているとのことですが、技術職員の場合、交流先で同じ内容の仕事ができる可能性が引く、職員の専門性が無視されていることが問題になっていました。

また、東北大学では、部局間での人事異動が計画されており、これも問題になっているようでした。こちらは、職員のマンネリ防止とスキルアップを趣旨として計画されているようでしたが、組合の調査では、賛成4割、反対6割ぐらいで、職員の意思にそぐわない人事異動がなされないよう大学に要望していました。

ローカル線で行く！フーテン旅行記

第10回 冷房のない普通列車の旅！

JR北海道 各線

工学部単組 大西 孝

暑い日が続いて夏バテ気味という一方で、冷房の風に当たりすぎて体調が思わしくないという声も聞こえてきます。そんな時は思い切って涼しい北海道に行って、冷房のない列車に乗ってみませんか。北海道では、特急列車と札幌近郊の快速・普通電車を除くと、まだ多くの冷房が付いていない普通列車が走っており、地方都市を結んでいます。

以前は岡山でも冷房のない普通列車が走っており、特にディーゼル車の冷房化は遅く、津山線や吉備線のすべての列車に冷房が付いたのは15年ほど前のことです。かつては走行中に窓から吹き込んでくる風で涼を取るのが当たり前でしたが、今では冷房が効き窓もあまり大きく開けられないようになっていました。もっとも、うだるような暑さの岡山では冷房が付いているのはありがたいことですが、北海道のように比較的涼しいところであれば、窓を開けて風を受けた方が気持ちいいことも多いのです。

北海道の地方路線を走る普通列車は、大体が1両だけのワンマンカーで、富良野線のような観光路線を除けば、ガラ空きのことがしばしばです。幹線を走る普通列車は、特急列車を先に行かせるために、途中の駅で長時間停車することもあります。手早く目的地に着き、観光地を巡る旅には適しません。

とは言え、窓を大きく開けて、少し硬くて背もたれが垂直に切り立ったボックス席に座りながら窓外の雄大な景色を眺め、名産品の詰まった駅弁を食べながらのんびり旅行するのは、時間に追われている日常から考えると、ものすごく贅沢なことではないでしょうか。目的地に行く過程も旅として考えるのであれば、一部の区間だけでも普通列車を使ってみるのも一興です。

北海道で普通列車に乗るのにお勧めの区間といえば、日本最北端の駅、稚内から旭川を結ぶ

宗谷本線や、オホーツク海を眺めながら網走と釧路の間をのんびり走る釧網（せんもう）線、釧路から根室を結ぶ花咲線などが挙げられます。また、頻繁に特急が行き交う函館本線なども、普通列車に乗って眺めるニセコ連山や羊蹄山、噴火湾の眺めは格別です。

この夏は爽やかな風に吹かれながら懐かしい普通列車の旅を味わってみてはいかがでしょうか。夏バテも吹っ飛ばすことと思います。なお、今回ご紹介する風景や駅弁の写真は、すべて普通列車の車内で撮影したものです。のんびりした雰囲気をお楽しみいただければ幸いです。



青いボックス席も懐かしい、普通列車の車内。冷房はなく、天井で扇風機が回っています。



花咲線の車窓に広がる湖。人工物が目に入らず、北海道らしい光景です。



南千歳駅の「サーモン寿司」。いかにも北海道という感じです。

岡大と組合のよりよい未来に一步でも近づくための

夏のパーティーのご案内



おいしいものを食べながら出会いを楽しみ、
日頃話せないことなどを語り合っ、楽しく
過ごしましょう。

お誘いあわせの上、是非ご参加くださいませ。



新加入の方は、無料
です。

日時：2013年8月30日(金) 19:00より

会場：シダックス

http://yoyaku.sdx.co.jp/pc/shopinfo_59170.html

岡山市北区田町 2-12-25

TEL 086-227-7520

参加費：組合員：1000円

未加入者：3000円

(有期雇用職員の方及び組合員の紹介がある場合は2000円)

*お申込みは、各組合役員または連合体組合事務室に、
お電話、FAX、メール、学内便で、8月23日まで
にお願いします。締め切りを過ぎてはどうぞご相談ください！



きりとり

岡山大学職員組合行

2013夏のパーティ(8/30)申込書

いずれかに○で囲んでください。

組合員 ・ 新加入組合員

未加入者(紹介者名:)

お名前 _____

ご所属 _____



主催 岡山大学職員組合

Tel/Fax: 086-252-4148 (内線7168)

メールアドレス ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp